



# 日 乗 連 ニ ュ ー ス

## ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004. 4.09 No. 27 - 87

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan  
幹事会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4  
フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

### 日本航空乗員組合 E100 期以降の FE 問題に前進回答！ ～ 日航経営が春闘団交で、パイロット職変実施を事実上表明～

3月18日に、日本航空乗員組合に出された乗員計画に関する春闘回答の中で、E100期以降のFEについて言及するものがありました。2003春闘・夏闘・年末の回答から一部文言が変更されています。2003年末までの回答では、FEとしての乗務機会がなくなった場合には、その後の処遇はあくまでも地上職に限定することに拘っていましたが、今回の回答では『検討する』としており、地上職に限定しない可能性を読み取ることが出来ます。これまでも団交発言等で『パイロット職変は選択肢の一つ』と言及はしていたものの、文書でパイロット職変を示唆するものが示されたのは初めてです。抽象的ではありますが、日本航空において、文言の表現がこのように変更されることは実質的な回答と見ることができ、大きな前進と考えられます。春闘回答団交以降、山場までの3回の団交における労使のやり取りから、日本航空乗員組合は日本航空経営がE100期以降のFEのパイロット職変実施を事実上表明したと受け取り、この事実上の回答を大きな前進であると評価しています。しかしながら、どのような訓練内容が検討され、提示されるかについては予断を許さないところです。日乗連はこの問題について今後も注視し、最大限の支援を行っていきます。

#### 2004 春闘回答(今回変更されたもの)

##### 航空機関士について

乗員計画については、事業計画との整合性を図りつつ、慎重に策定していく考えであります。

なお、航空機関士のパイロットへの移行訓練については、当該訓練に関わる貴労組との協定に基づき、1996年度実施の調査で最終的に確定した希望者全員に対し訓練を終了しており、貴要求には応じかねます。(以下、変更部分) また、E100～103期の航空機関士に関する会社の考え方は、これまで交渉等の場でご説明しているとおりであり、「2004-2006年度」ALグループ中期経営計画」等も踏まえ、今後の対応について検討する考えであります。

#### 2003 春闘・夏闘・年末回答

##### 航空機関士について

乗員計画については、事業計画との整合性を図りつつ、慎重に策定していく考えであります。

なお、航空機関士のパイロットへの移行訓練については、当該訓練に関わる貴労組との協定に基づき、1996年度実施の調査で最終的に確定した希望者全員に対し訓練を終了しており、貴要求には応じかねます。(以下、変更前の表現) また、E100～103期の航空機関士に関する会社の考え方は、2000年3月31日付け文書(OGZ/X-002)等でお伝えしているとおりであります。

「2000年3月31日付け文書(OGZ/X-002)」とは以下のような内容です。(E103期が発令から5年とする当初の乗務期限を迎えるに当たって、会社が乗務継続に関して言及したものです。)

E100～103期の航空機関士24名の乗務期間については1999年2月8日付ILZ/C-034にてお伝えして以来再三ご説明しているとおり、本人が希望する場合には採用時に提出した同意書の趣旨に則り、航空機関士として乗務する機会がなくなることが明らかになった時には地上職に職種変更することを条件にDC10型式機退役後もB747型式機への移行を前提に会社は航空機関士としての乗務継続を認めるというものであります。E103期の航空機関士の方々には本条件をご了解の上、乗務継続を希望されるか否かにつき今日まで会社として確認を行ってまいりましたが、仮に本条件をご了解いただけない場合には採用時の同意書に則り、地上職に職種変更していただくこととなります。会社としては当該者の乗務継続の意思が採用時に提出した同意書の趣旨に則ったものであることが手続き上重要であると考えていることをあらためて申し上げます。

尚、本契約は会社と本人との個別の合意であることから対象者本人の意向確認は今後も会社が直接実施していく考えです。

